今月の御教え

昔から、親が鏡を持たして嫁入りをさせるのは、顔をきれいにするばかりではない。心につらい悲しいと思う時、鏡を立て、悪い顔を人に見せぬようにして家を治めよということである。

……金光教祖御理解　第八十八節……

解説

この御教えは一見すると、女性に、損な役割や忍従を強いた封建時代の道徳観のようにも思えるかもしれません。しかし、「男尊女卑」が当たり前とされた時代に、「腹は借り物ではない、万代の宝じゃ」「女は家の家老じゃ」「女は神に近い」と言い切られ、身分・性別による差別を完全否定された教祖様において、この様な御教えをされたということは、教祖様の座右の銘とも言うべき「実意丁寧」「真」「信心辛抱」との御教えを顕す上での大切な具体的な実践例を示された御理解である事が改めて分からされるのであります。故に、この御理解の如く、女性の立場から信心辛抱の実践により、家庭が治まり、良き信心家庭が形づくられ、先々、子孫までも御蔭を頂くことが出来るようになるのであります。

共々に、夫々の性別、立場での信心実践に勤しみ、御蔭を頂きましょう。